ヒヨドリバナ

Eupatorium chinense var.oppositifolium

キク科

名前の由来
野鳥のヒヨドリがさえずる頃に開花することから名付けられたといわれる。漢字名：鵯花

ヒヨドリバナ

形態的特徴

高さ1.5～２mになる。茎は硬く紫褐色味を帯び、縮毛がありざらつく。葉は先がとがった楕円形で、縁には鋭い鋸歯があり、短い柄を持つ。葉裏面、特に脈上に短毛が多く、葉を透かしてみると、裏面に腺点とよばれる黒く小さい点がまばらにあるのが分かる。２枚の葉が茎に向かい合って対生する。花は白色から少し赤味を帯びるものまであって、細かく筒状で、上部で枝分かれした茎の頂に多数まとまってつく（花序はまばらな散房状）。

類似種と見分け方：ヨツバヒヨドリ、サワヒヨドリ。
ヨツバヒヨドリでは４枚の葉が輪生することが特徴だが、完全に輪生せず、２枚ずつに分かれ、ヒヨドリバナとの区別が難しい場合もある。サワヒヨドリの葉は２枚が対生し、それぞれの葉が３裂して６枚の葉が輪生状につく場合もある。また、サワヒヨドリは葉柄を持たず、よく目立つ３脈がある。

生育環境・分布

低地～山地の林縁や日当たりのよい草原などに生育する。
分布：国外分布は、朝鮮・中国・フィリピン。
国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。
十勝地方では、低地～山地の林縁や日当たりのよい草原などで見られる。

生活史

開花時期：8～9月。**開花までの年数**：不明。**寿命**：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■ヒヨドリバナには染色体数が２倍体（２n＝40）と、倍数体（2n＝30, 40など）のものがあり、２倍体は西南日本に、倍数体は北海道から九州に広く分布する。２倍体は細かく裂けた葉を持ち、キクバヒヨドリと命名されているが、中間型もあり区別は難しい。北海道で見られる倍数体の方は大型で、受精をせずに種子を形成する無融合生殖をおこなう。

配慮事項

生育している環境全体が重要である。

ヒヨドリバナ

類似種のヨツバヒヨドリ

生活サイクル

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
開　花　期					―	―						
結　実　期						―	―					

参考文献
「改訂版　牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎　北隆館　1989
「北海道植物図譜」滝田謙譲　自費出版　2001
「日本の野生植物　草本Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎　他　平凡社　1981
「北海道　夏～秋の花　絵とき検索表Ⅲ　梅沢俊・村野道子　エコネットワーク　2001